

小学校 発問検討ワークシート（入力後）

①教材名	ぐみの木と 小鳥	②内容項目	B 親切, 思いやり
<p>③教材分析 (中心発問で考えさせるために押さえておきたいこと)</p>	<p>主人公: <b>小鳥</b>    その他の登場人物: <b>ぐみの木</b>, <b>りす</b> (二人は友だち)</p>		
<p>④ねらい (この教材で児童に考えさせたいこと)</p>	<p>親切にされると嬉しいことは、子どもも経験している。親切にしたときの嬉しさを押さえたい。          小鳥さんも、ぐみの木さんも自分にできることをした。          ねらい: 親切は自分も相手も温かい気持ちにできることに気づき、自分にできることで、人に温かい個々で親切に接しようとする心情を育てる。          低学年なので、親切にした「結果」を押さえる。          温かさ みんなが温かい気持ちになることを押さえたい。          親切にした人も、周りの人も温かくなる。みんな          Before→親切にすると褒められる。 after→周りの人もみんな温かくなる。          (主題名: 親切って温かい)</p>		
<p>⑤中心発問 (ねらいを達成するための発問)</p>	<p>一番最後の場面を取り上げたい。(親切にした結果)          導入: 親切にされたときの、心の顔を描いてみましょう。          中心発問: りすさんと話をする小鳥さんはどんな気持ちでしょう。小鳥さんの心の顔を描いてみましょう。          親切にした小鳥さんを押さえる。          補助発問: 小鳥さんと話をするときのりすさんはどんな気持ちでしょう。          補助発問: 小鳥さんと話をするときのぐみの木さんは、どんな気持ちでしょう。          顔の絵を元に、友達と違いを見合ったりすることに使える。          今回は、導入の親切に「された」とき、中心発問の親切に「した」ときで比べる。          文章を書くのが難しい低学年に、絵は有効。</p>		
<p>⑥導入発問, 基本発問, 補助発問 (中心発問にいたるまでに押さえておきたい発問)</p>	<p>導入発問: だれかに優しくしてもらったときの、心の顔を描いてみましょう。          基本発問①: ぐみの木さんに頼まれて行ったとき、小鳥さんはどんな気持ちでしょう。          補助発問: 2 回目行ったとき、りすさんに涙を浮かべてお礼を言われたとき、小鳥さんはどんな気持ちでしょう。          1 回目から 2 回目, 3 回目で小鳥さんの気持ちが変わっていくことを押さえる。          基本発問②: 嵐の中、小鳥さんはどんなことを考えながら飛び立ったのか。          小鳥さんが飛んでいるとき→不撓不屈? がんばる? なぜ飛ぼうと思ったか。          悩んでるときを聞くと、「雨だしなあ」とかが出てしまう。</p>		

※発問検討の記録です。動画で紹介していない部分も含まれています。  
 ※記録のため、誤字脱字などが含まれている場合があります。

	<p>相手の気持ちを深く考えるとところまでは低学年では難しい。お互いにニコニコ温かく。 主人公が変わった時を問う？きっかけを問う？ →心を決めたときを問う</p>
⑦振り返りの発問	<p>中心発問の顔の絵を振り返りながら。 <b>振り返り:誰かに優しく親切にして、こんな顔になったことはあるかな。</b> ↑過去を問う。 学んだことと自分を重ねて考える。直接的に、「これからどうしますか?」とは問わない。「親切にします!」という決意表明になってしまう。 単に「今まで、親切にすることがありますか?どんな気持ちでしたか?」という問い 子どもが親切をどう捉えているかわかりにくいのでは。 →「ほめられてよかった」等も出てしまう。 過去をプラスで振り返る。できていることについて、そのことの意味を考えさせる。</p>
⑧ねらいに近づくための工夫	<p>顔の絵を描く工夫。 →子どもによって顔が違う。泣きそうな顔やニコニコ顔だったり。同じ顔でも理由が違ったり。 友達の意見に興味をもつ →泣きそうな顔→「悲しいの?」と聞いてみる。「嬉しくて泣いてる」などの意見が出てくる。 →児童個人持ちのタブレット PC が配布されたとき、それに顔を描かせて、全員の絵を一覧表示して考える、ということができるのでは。 3回、小鳥が飛ぶところ、気持ちが深まっていくことを押さえる。 →このときに、リスさんの顔も描かせる? 時間的に難しい。 ロールプレイは? 泣きそうな顔など複雑な演技させるのは難しい。飛んでいるところのロールプレイで盛り上がりすぎても困ってしまうので、今回は取り入れていない。 ロールプレイを見ている子たちに重点を置く。 →登場人物のことを理解しつつ、演技している子のことも理解してほしいので。 第3者の、俯瞰的な見方。視点を広くする効果もある。</p>
まとめ	<p>研究会で、「この小鳥の行動は、蛮勇では?」と尋ねられることがある。 <b>行動ではなく、それを支えた心を問いたい。</b> 「危険をおかしてでも親切にすべき」を教えたいのではない。 自己犠牲ではない。 中学校はさりげなさ。親切を見せようとしなない。 本当の親切は、自分を犠牲にする等は考えずに、そうせずにはおられないこと。  自分との関わり、自分事として考えさせるには? 教材その物の中で、自分事として考えるのが大事。  答えが限定されること(教材に書かれていること)では自分事にならない。さまざまに考えられるとき、自分事になる。 天井を見るような発問(自分のことを思い出している)。子どもが考えてみたい問い。</p>

※発問検討の記録です。動画で紹介していない部分も含まれています。  
※記録のため、誤字脱字などが含まれている場合があります。

	<p>・教材によって発問作りが難しい。人物伝など。</p> <p>「なんでこの人のことを皆は伝えたいのだろう？大事に、あとに伝えたいのだろう」と考えながら教材分析をする。</p> <p>弱さのない人物(偉人)もいる。</p> <p>なぜ、みんなが憧れたり感動したりするのだろうか。</p> <p>「マザーテレサのようにできますか？」と問うのではなく、「マザーテレサのように、大変な人を見たとき、心がフツと動くことはありますか」等と問う。その心は私たちの中にもある。しかし、それを実現することは難しい、ということも押さえる。</p> <p>子どもから中心発問が設定されるような授業の仕方。</p> <p>そうなればいいなどは思うが、なかなか難しい。</p> <p>発問をいずれ絞らないといけないので、他の問いをもっていた子を大切にすることが難しい。</p> <p>そもそも、なぜ子どもたちに問いを立てさせるのか。</p> <p>→主体的に考えさせたいから。</p> <p>自分事として考える→主体的に考えさせること。</p> <p>導入から教材に入っていくときの問い</p> <p>「こんな顔になった人たちが出てくるお話しを読んでもみようね」</p> <p>親切さんてどんな顔だろうね。親切パワーについて考えてみよう。</p>
--	---

※このワークシートで検討した内容を指導案に転記すると、スムーズに指導案を作成できます。